別紙

ジェネリック医薬品の採用手順と採用マニュアルの利用例

【各医療機関におけるジェネリック医薬品採用手順例】

① ジェネリック医薬品の有無
現在採用中の先発医薬品より、ジェネリック医薬品が発売されているものをリストアップする。

※保険薬局においては準用

↓

② 切り替え候補医薬品（先発医薬品）の選定
リストアップされた先発医薬品の中から、ジェネリック医薬品へ切り替える候補医薬品を選定する。
〇候補医薬品選定に際しての検討事項（例示）
・薬効群
・剤形（注射剤、内服固形剤、外用剤など）
・経済性（処方件数、薬価、その他）
・他医療機関における切り替え状況　など
※この検討事項（選定の観点）は、各医療機関の方針等により異なるものであり、一律の基準とすることは適当でないため、例示にとどめる。

↓

③ 採用品目（GE）の選定
各切り替え候補医薬品（品目）の評価を行い、採用するジェネリック医薬品の品目を選定する。

← ジェネリック医薬品評価表を利用

↓

④ 院内承認、購入手続等
薬剤委員会審議　→　院内決裁　→　院内周知　→　購入

↓

使　用

↓

⑤ 採用後の評価
採用後、一定期間を経た後（問題発生時は随時）、当該ジェネリック医薬品（品目）の継続使用を検討する。

← 採用後評価項目を利用

↓

継続使用